

ミスタープロ野球 長嶋茂雄さんの原動力

「私は今日、引退をいたしますが、我が巨人軍は永久に不滅です！」
1974年10月14日、ミスタープロ野球こと長嶋茂雄さんが引退スピーチで発した、有名な言葉だ。

「サード長嶋」は打って、走って、守っての三拍子で観衆を魅了した。王貞治さん（ソフトバンク会長）とのONコンビは、巨人9連覇の中心だった。そして監督でも通算15季、巨人を率いた。まさにジャイアンツ一色の歩みだ。

グラウンドで

今年、長嶋さんが現役を引退して50年になる。2004年に脑梗塞を患った影響で車いす生活を余儀なくされているが、東京ドームを訪れ、ファンの前に出ることをためらわない。選手にアドバースを送ることもある。88歳の原動力になっているものは何か。
長嶋さんのスタジアム来場に付き添う、江戸川大副学長で巨人の総務本部長付アドバイザーの広岡勲さんは「巨人への旺盛なパッション（情熱）ではないか」と話す。
開幕戦など、シーズンの節目で訪れることが多いが、チーム状況を追いながら、いつ自分が訪れるべきか、タイミングを

引退50年 不滅の巨人愛



巨人の選手たちの拍手に送られて退場する長嶋茂雄さん＝2023年11月23日

計っているという。今年、異例だったのは、交流戦後のリーグ戦再開直前だった6月20日の練習日だ。車いすから打撃練習を見守り、坂本勇人や岡本和真らにアドバースを送った。

最後の教え子

長嶋さんが監督時代に専属広報だった小俣進さんは、阿部慎之助監督の存在を挙げる。「気にならんだろうね。最後の『教え子』だから」
01年、ドラフト1位で入団した新人捕手を起用し続けたのが、ミスター



だった。長嶋巨人最後のシーズン。清原和博、松井秀喜、高橋由伸らチームの主力野手は固まっていた。唯一の課題が捕手。その最後のピースに阿部をはめ込んだ。

「今季は巨人戦をテレビで見ながら褒めてたよ。『阿部の采配はオレにはできない。捕手目線だから』って」
阿部監督は東京ドームに長嶋さんが姿を見せると最敬礼し、時には選手たちの前でのミーティングをお願いする。長嶋さんが話し終わると、阿部監督が「今日もおしゃれなミスターでした」などと付け加え、場がドツと和むのがお決まりになった。

その直後に返ってきた、長嶋さんの言葉が忘れられない。あの独特の言い回しだった。「うーん。そうでしょう。松井とは親、兄弟と同じような強い血のつながりがありますから」

米国から手紙

今年、巨人の球団事務所に通の国際郵便が届いた。送り主は在米日本人で、1966年の巨人戦チケットの半券と、長嶋さんの現役時代の野球カードが入っていた。手紙には「あなたがデビューした時からのファンです」と書かれていた。

関係者が特別に長嶋さんへ渡したところ、「そろか」とうなずき、自身の永久欠番「3」を野球カードに書き込んだ。病気の影響で利き手とは逆の左手しか動かない状況だが、直筆サインとして送り返した。

長嶋さんの巨人、そして野球ファンへの熱い思いは不滅で、まさに、終身名誉監督としての生き様を見せてくれている。
（福角元伸）

引退式でファンにあいさつした後、深々と一礼する長嶋茂雄選手＝1974年10月14日